

# 沖縄県における平成28年産さとうきびの生産状況について

沖縄県農林水産部糖業農産課

### 【要約】

沖縄県の平成28年産さとうきびは、生産量93万7523トン（前年比124.2%）と、前年産を上回るとともに17年ぶりに90万トンを超える豊作となった。収穫面積は1万2938ヘクタール（同97.9%）と前年同様であったが、台風などの大きな災害も無く気象条件などにも恵まれたことにより10アール当たりの単収で7246キログラム（同126.9%）と大幅に伸びて生産量を押し上げた。また、平均甘しゃ糖度も14.6度（前年13.6度）と前年を上回る実績となり、品質的にも充実した年となった。

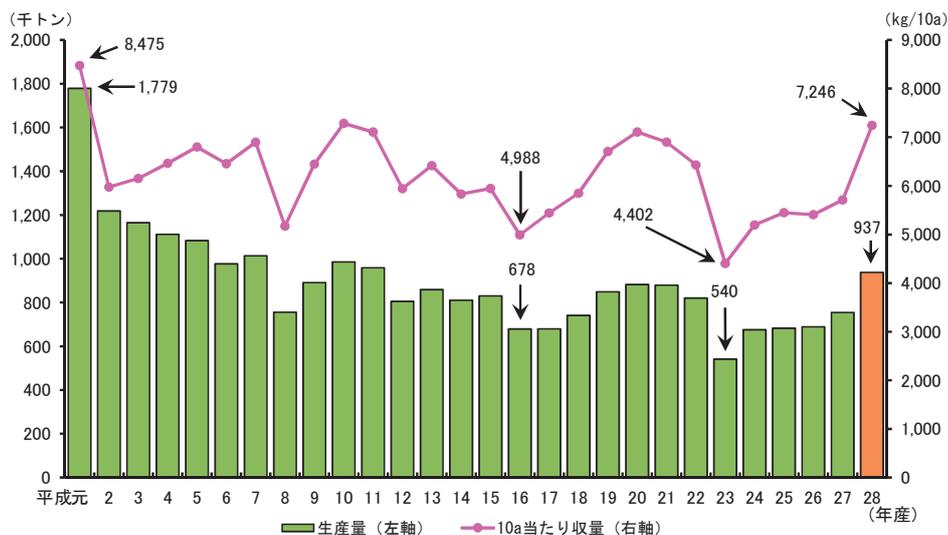
## 1. さとうきびの位置付け

沖縄県におけるさとうきびは、県全体の農家数の約7割、耕地面積の約5割、農業産出額の約2割を占める基幹作物であり、特に多くの離島を抱える本県において製糖業とともに地域経済、社会を支える重要な作物となっている。また、さとうきびは他作物に比べて比較的台風や干ばつに強く、離島地域においては代替の効かない作物である。

沖縄県では、国の「さとうきび増産プロジェクト基本方針」に基づき、平成18年に策定した各島別

および県段階における生産目標や取り組み方向を示した「さとうきび増産プロジェクト計画」を27年に改定した。さらに、24年度から新たにスタートした「沖縄振興特別措置法」に基づき、「沖縄県21世紀ビジョン基本計画」を24年5月に策定し、この二つの計画によって生産基盤の整備、安定生産技術の開発および普及、機械化や地力増強、病害虫防除対策の推進、生産法人等担い手の育成、優良品種の開発・普及など総合的な施策展開による生産振興を推進している。

図1 さとうきびの生産量と10a当たりの収量の推移



資料：沖縄県調べ

## 2. 平成28年産さとうきびの生育概況

### (1) 沖縄地域（沖縄本島、伊平屋島、伊是名島、伊江島、粟国島、久米島、南大東島、北大東島）

生育初期は、気温、日照時間ともに平年並みで、適度な降雨により順調に生育した。その後、生育旺盛期から生育後期にかけても適度な降雨により順調に生育した。久米島は10月の台風襲来により折損、葉片裂傷が見られたが、全体的にはその後の気象条件にも恵まれたことから前年産に比べ増産した。

大東地域では、生育初期は一部で小雨傾向だったが、生育旺盛期は適度な降雨により順調に生育した。9月に台風の接近はあったものの、特に大きな被害は無く生育後期も気象条件にも恵まれたことから前年産に比べ増産した。

### (2) 宮古地域（宮古島、伊良部島、多良間島）

生育初期は平年に比べ降雨も多く順調に生育し、生育旺盛期も適度な降雨により順調に生育した。また、9月の台風襲来により葉片裂傷などの被害は

あったが、全体的には気象条件に恵まれたことから前年産に比べ増産した。

### (3) 八重山地域（石垣島、小浜島、西表島、波照間島、与那国島）

生育初期から生育旺盛期にかけて少雨傾向で一部生育に停滞が見られた。9月に2個の台風襲来で葉片裂傷などの被害もあったが、まとまった降雨もありその後の生育は順調であった。与那国島では、前期の収穫遅れに伴う肥培管理の遅れや9月の台風襲来の影響もあり前年産に比べ減産したが、その他の島では生育後期にかけ台風の被害も軽微で気象条件に恵まれたことから、前年産に比べて増産した。

## 3. 平成28年産さとうきびの生産状況

平成28年産さとうきびの収穫面積は1万2938ヘクタールとなり、27年産に比較して274ヘクタール減少した（前年比97.9%）。生産量は18万2852トン増加し93万7523トン（同124.2%）、10アール当たり収量は7246キログラムと、前年に比較し

て10アール当たり1534キログラム増加（同126.9%）した（表1、表2、表3）。

表1 地域別生産実績

地域	収穫面積	生産量	10a当り 収量	
			kg	平年比
	ha	t	kg	%
沖 縄	5,932	395,341	6,664	144
宮 古	5,410	435,564	8,051	116
八重山	1,595	106,618	6,684	116
県 計	12,938	937,523	7,246	128

資料：沖縄県調べ

注：平年は、H21～H27の過去7年中庸5年平均。

表2 生産量の比較

地域	H28年産 ①	H27年産 ②	増減 ①－②	前年比 ①/②	復帰時（S47） 生産量
	千 t	千 t	千 t	%	千 t
沖 縄	395	305	91	129.8	1,057
宮 古	436	345	90	126.2	284
八重山	107	105	2	101.5	73
県 計	938	755	183	124.2	1,414

資料：沖縄県調べ

表3 10a当たりの収量の比較

地域	H28年産 ①	H27年産 ②	①－②	7中5平均 (H21－H27)		前年比 ①/②
				③	①/③	
	kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a	%	%
沖 縄	6,664	5,066	1,598	4,637	144	131.5
宮 古	8,051	6,632	1,419	6,958	116	121.4
八重山	6,684	5,259	1,425	5,775	116	127.1
県 計	7,246	5,712	1,534	5,638	129	126.9

資料：沖縄県調べ

(参考) さとうきび生産農家数など（H28年産）

地域	農家戸数	さとうきび 生産農家戸数	さとうきび 生産農家割合	1戸当たり 収穫面積
	戸	戸	%	a/戸
沖 縄	13,462	7,838	58.2	76
宮 古	5,345	5,515	103.2	98
八重山	1,249	1,340	107.3	119
県 計	20,056	14,693	73.3	88

資料：2015年農林業センサス、沖縄県調べ

注：農家戸数は、農林業センサスでの総農家数。

沖縄地域では収穫面積は80ヘクタール減少したものの、10アール当たり収量が前年に比較して1598キログラム増加したことから、生産量も増加した。宮古地域では収穫面積は207ヘクタールの増加、さらに10アール当たり収量も1419キログラム増加し、生産量も増加した。八重山地域では収穫面積は403ヘクタール減少したものの、10アール当たり収量が前年に比較して1425キログラム増加したことから、生産量はわずかながら増加した。

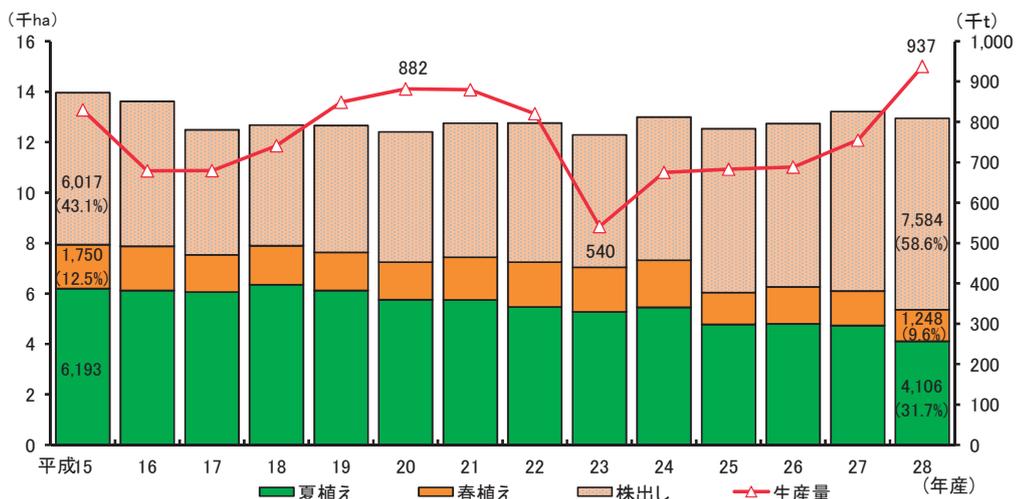
なお、各地域別生産量では、沖縄地域（周辺離島

を含む）が全体の42.2%、宮古地域が46.5%、八重山地域が11.3%となっている。

作型別では、夏植え栽培が623ヘクタール減少し4106ヘクタール（全収穫面積に占める割合31.7%）、春植え栽培が123ヘクタール減少し1248ヘクタール（同9.6%）、株出し栽培が473ヘクタール増加し7584ヘクタール（同58.6%）となった（図2）。

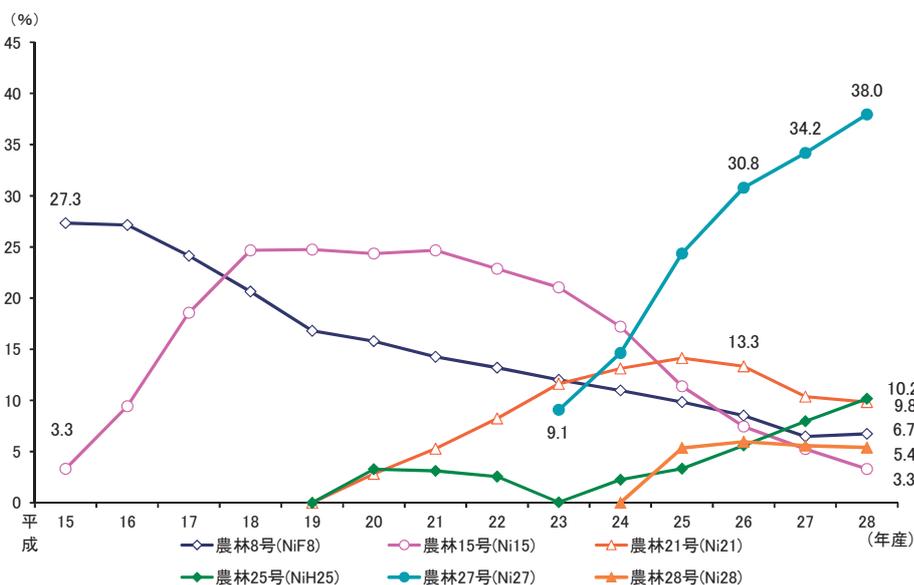
品種構成は、農林27号が全収穫面積の38.0%を占め、次いで農林25号が10.2%、農林21号が9.8%、農林8号が6.7%、農林28号が5.4%となった（図3）。

図2 さとうきび生産の推移（作型別）



資料：沖縄県調べ

図3 主なさとうきび品種の推移（収穫面積構成比）



(参考) さとうきびの主な奨励品種 (沖縄県)

品種名	採用年度	特徴
農林8号	H6	早熟、高糖、多収で、脱葉しやすく、収穫作業の効率化が図れる。
農林15号	H14	早期高糖性で高品質。黒穂病に強く、風折抵抗性が強い。
農林21号	H18	風折抵抗性に優れ、潮風害後の糖度上昇阻害が軽微、収穫期の糖度が高い。
農林22号	H20	発芽、萌芽、分けつ性、初期伸長が優れ、株出し多収。
農林25号	H20	初期伸長性に優れ、茎重型で干ばつに強い。さび病・葉焼病に強い。
農林27号	H22	中太茎で茎の揃いが良く多収。脱葉性が良好。葉焼病などの葉の病害に強い。

### (1) 沖縄地域

収穫面積は5932ヘクタールで平成27年産に対して80ヘクタール減少したものの、10アール当たり収量は6664キログラム（前年比131.5%）と前年に対して増加し、生産量は39万5341トンで9万800トン（同129.8%）増加した。

作型別では、夏植え栽培831ヘクタールで61ヘクタール増加し、春植え栽培806ヘクタールで124ヘクタール減少、収穫面積の約7割を占める株出し栽培は、4296ヘクタールで15ヘクタール減少となった。春植え、株出し栽培の収穫面積は減少したものの、全作型で10アール当たり収量が増加したことに伴い、増収となった。

品種構成は、農林21号が13.7%、農林8号が12.6%、農林28号が11.4%を占めており、次いで農林27号、農林22号も普及している。

### (2) 宮古地域

収穫面積は5410ヘクタールで平成27年産に対して207ヘクタール増加し、10アール当たり収量は8051キログラム（前年比121.4%）、生産量は43万5564トンで9万492トン（同126.2%）と増加した。

作型別では、近年、株出し栽培が増加傾向にあり、28年産は2682ヘクタール（同131.7%）、生産量は18万4702トン（同163.9%）と、昨年に引き続き増加した。

品種構成は、農林27号が72.4%と最も多く、次

いで農林25号が9.2%となっている。

### (3) 八重山地域

収穫面積は1595ヘクタールで平成27年産に対して403ヘクタール減少し、10アール当たり収量は6684キログラム（前年比127.1%）、生産量は10万6618トンで1560トン（同101.5%）増加した。

作型別では、春植え栽培で31ヘクタール減少、夏植え栽培で214ヘクタール減少、株出し栽培で157ヘクタール減少と全作型で減少したが、10アール当たり収量は全作型で前年を上回った。生産量は夏植え栽培で5169トン減少となった一方、春植え栽培で2481トン増加の9625トン、株出し栽培で4248トン増加の3万1948トンであった。

品種構成は、農林25号が30.9%と増加し、次いで農林27号29.5%、農林22号14.0%、農林15号9.2%となっている。

## 4. ハーベスタによる収穫状況

さとうきびの労働時間の大半を占める収穫作業の省力化を図るため、これまで国庫補助事業などを活用したハーベスタの導入を推進してきた。さらに、県では既存のハーベスタの導入に加え、刈り取り機、脱葉施設などの導入を進め、地域に応じた収穫体系を含む機械化一貫作業体系の確立を推進している。

平成28年産では、県内全域において大型、中型、

小型の各機種合計400台のハーベスタが稼働し、機械収穫率は収穫面積の70.2%（前年67.0%）と増加傾向にある。

## 5. 製糖工場の操業状況

沖縄県の製糖工場は、分みつ糖工場が8社9工場（8島）、含みつ糖工場が4社8工場（8島）が操業

している（表4）。

分みつ糖工場の平成28年産原料処理量は、27年産より17万3657トン増加し86万7214トン（前年比125.0%）となり、買入糖度は、前年より1.00度高い14.64度となった。

含みつ糖工場の28年産原料処理量は、27年産より9195トン増加し7万309トン（同115.0%）となった。

表4 製糖工場ごとの操業実績

島名	会社/工場名		操業期間	原料処理実績								
				H28年産	H28年産				増減 (H28-H27、H28/H27)			
					原料処理量 (t)	歩留 (%)	産糖量 (t)	買入糖度 (度)	原料処理量 上段: t 下段: %	歩留 (ポイント)	産糖量 上段: t 下段: %	買入糖度 (度)
<b>【分みつ糖】</b>												
沖縄本島	ゆがふ製糖	うるま	12月17日 4月17日	175,327	12.07	21,164	14.69	18,634 112	1.06	3,918 123	0.78	
伊是名島	JAおきなわ	伊是名	12月14日 3月30日	22,043	11.96	2,636	15.00	68 100	1.07	242 110	0.90	
久米島	久米島製糖	久米島	1月21日 4月15日	55,187	11.34	6,258	13.69	10,846 124	△ 0.11	1,183 123	0.18	
南大東島	大東糖業	南大東	12月8日 4月6日	100,383	11.16	11,199	13.54	44,689 180	0.57	5,303 190	0.89	
北大東島	北大東製糖	北大東	1月11日 4月5日	27,096	12.14	3,288	15.10	13,254 196	0.75	1,712 209	1.04	
宮古島	沖縄製糖	下地	1月11日 5月6日	181,923	12.33	22,440	15.27	36,951 125	1.23	6,351 139	1.39	
	宮古製糖	城辺	12月17日 4月11日	152,289	12.68	19,311	14.31	28,545 123	1.37	5,319 138	0.55	
伊良部島	宮古製糖	伊良部	12月1日 5月26日	75,953	12.72	9,662	15.76	20,279 136	1.71	3,533 158	1.24	
石垣島	石垣島製糖	石垣	1月6日 4月26日	77,012	11.37	8,754	14.43	389 101	2.13	1,671 124	2.05	
分みつ糖合計			12月1日 5月26日	867,214	12.07	104,711	14.64	173,657 125	1.19	29,230 139	1.00	
<b>【含みつ糖】</b>												
伊平屋島	JAおきなわ	伊平屋	12月9日 4月2日	6,003	12.82	769	-	1,642 138	△ 0.74	178 130	-	
伊江島	JAおきなわ	伊江	12月12日 3月30日	6,760	13.29	899	-	1,203 122	0.73	201 129	-	
粟国島	JAおきなわ	粟国	1月16日 4月11日	2,542	14.56	370	-	464 122	1.14	91 133	-	
多良間島	宮古製糖	多良間	12月20日 4月10日	25,398	13.94	3,541	-	4,715 123	2.28	1,129 147	-	
小浜島	JAおきなわ	小浜	1月13日 3月30日	3,207	12.75	409	-	△ 37 99	1.68	50 114	-	
西表島	西表糖業	西表	1月6日 4月21日	9,531	14.32	1,365	-	813 109	1.56	252 123	-	
波照間島	波照間製糖	波照間	12月5日 4月25日	12,937	14.44	1,868	-	2,598 125	1.54	534 140	-	
与那国島	JAおきなわ	与那国	1月16日 4月19日	3,931	10.70	421	-	△ 2,204 64	△ 0.01	△ 236 64	-	
含みつ糖合計			12月5日 4月25日	70,309	13.71	9,642	-	9,195 115	1.53	2,199 130	-	

資料：沖縄県調べ

---

## おわりに

沖縄県では平成37年産を目標とする「さとうきび増産プロジェクト」および33年を目標とする「沖縄21世紀ビジョン基本計画」に基づき、各種の生産振興施策・事業を展開している。28年産さとうきびは、前年に対して収穫面積は若干の減少はあったものの、気象条件などに恵まれたこともあり10アール当たり収量は大幅に増加し、生産量は目標を達成し、17年ぶりに90万トンを超える結果となった。

今回の増産は、気象条件に恵まれたことのほか、

生産者や関係機関・団体の地道な取り組みが実を結んだ結果である。

しかしながら、本県は台風常襲地域で、気象条件などは年変動も大きいことから、これまで同様の取り組みの継続と強化が必要である。

今後も継続して目標を達成していくため、気象災害と病害虫被害などに対応したセーフティネット（さとうきび増産基金）などを活用することにより、関係機関・団体が一体となって増産への取り組みを強化し、本県さとうきび生産農家と製糖企業の経営の安定化に向けて取り組んでいるところである。